

令和2年度 中央区立 城東小学校 自己評価報告書

中央区立城東小学校 住所 中央区日本橋兜町15-18 (R2.8より坂本小学校新校舎内)

校長 小久保 秀雄

児童数 163名 学級数 6 教員数 12名 職員数 14名

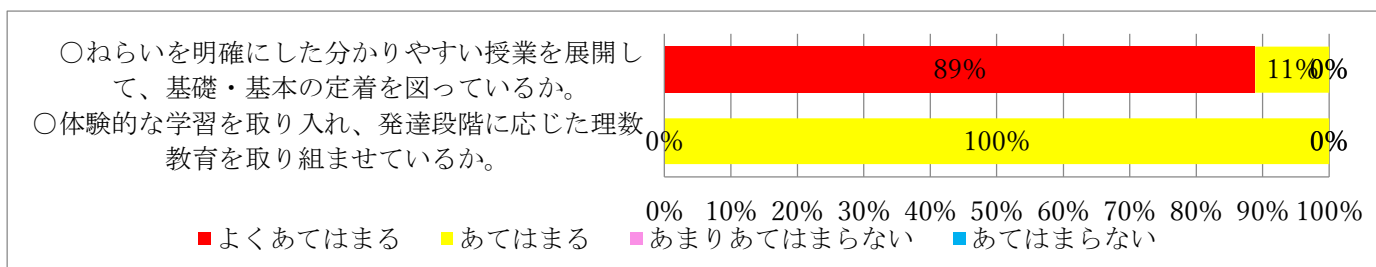
1 重点目標の達成状況及び取組状況

本校では、①確かな学力の向上、②心豊かな子どもの育成、③健康・安全教育の充実の3点を重点目標に掲げて教育活動を行っている。

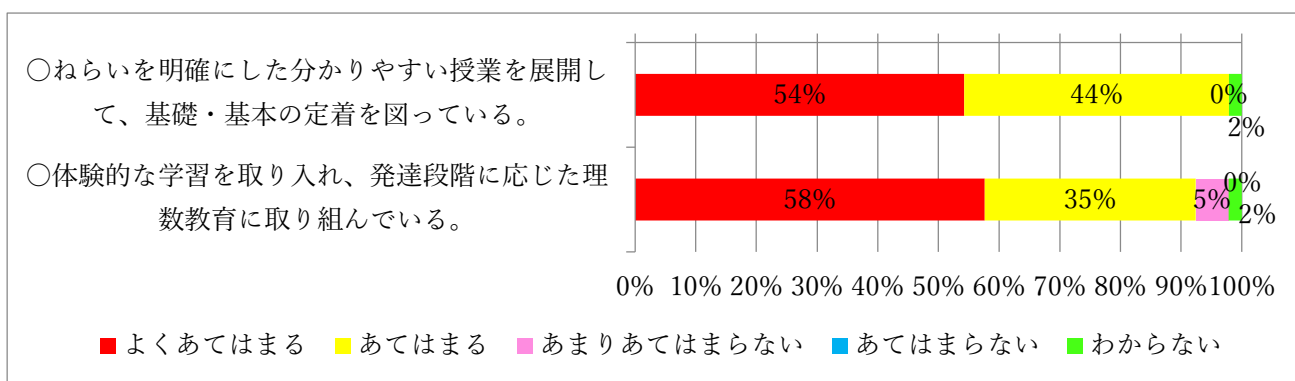
今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、2ヶ月の臨時休業や分散登校、様々な制限がある中での教育活動であった。未だコロナ禍の収束が見えず、次年度以降の教育活動にも影響が残ると考えられる。こうした背景の中、今年度の教育活動について教員の自己評価を行うとともに、令和2年12月に保護者、児童による学校評価を実施した結果、以下のような実態を把握することができた。これらの結果を受け、次年度の教育活動に生かしていきたいと考えている。

(1) 重点目標1「確かな学力の向上」について

<教員の自己評価>



<保護者アンケートによる評価>



※表中の数字(%)は四捨五入のため合計が100にならないことがあります。以下同様。

「確かな学力への向上」への取組では、昨年同様、「よくあてはまる」「あてはまる」の合計で教員・保護者アンケート共に90%以上と高い評価となった。特に、今年度は、2ヶ月間の臨時休業中の学習の遅れを取り戻すことが最重要課題であったため、毎時間のねらいを明確にしながら、基礎・基本の定着を図ってきたことが、教員による自己評価で「よくあてはまる」89%にも表れている。これは、児童アンケートによる「授業の内容はよく分かるか」において「よくあてはまる」「あてはまる」の合計が100%であることにも通じるところである。また、授業力を高める校内研究を一層充実させるために、理科・生活科の研究を算数科へも広げ、算数科での実践授業も5回行った。コロナ禍のため実践授業の公開はできなかったが、学ん

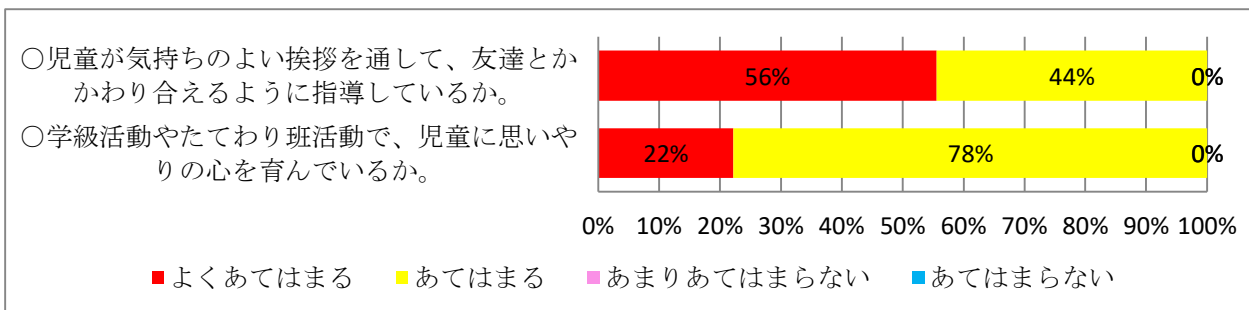
だ成果は「城東小理数ニュース」の定期的な発行と、区の共有ホルダーへの指導案などの掲載により区内各校への発信を行い、パイロット校としての役割を果たした。

一方、体験的な学習を取り入れた理数教育に関しては、教員の「よくあてはまる」が0%にもあるように、コロナ禍による様々な制限を受け、早稲田大学との連携した実験教室の中止や、筑波学園都市への理数校外学習の中止、サマー・ウィンターサイエンスキャンプの中止など、これまで本校が特色の一つとしてきた体験活動を十分に味わわせることが難しかった。そんな中でも、感染症対策をしっかりと行い、全学年でディレクトフォースによる実験教室を行うなど、できることは進んで実践していこうという姿勢が保護者に伝わり、「よくあてはまる」「あてはまる」の合計が93%の高評価（内「よくあてはまる」が58%）を得たことは、学校の状況をご理解の上ご支援くださっている表れだと感じるところである。

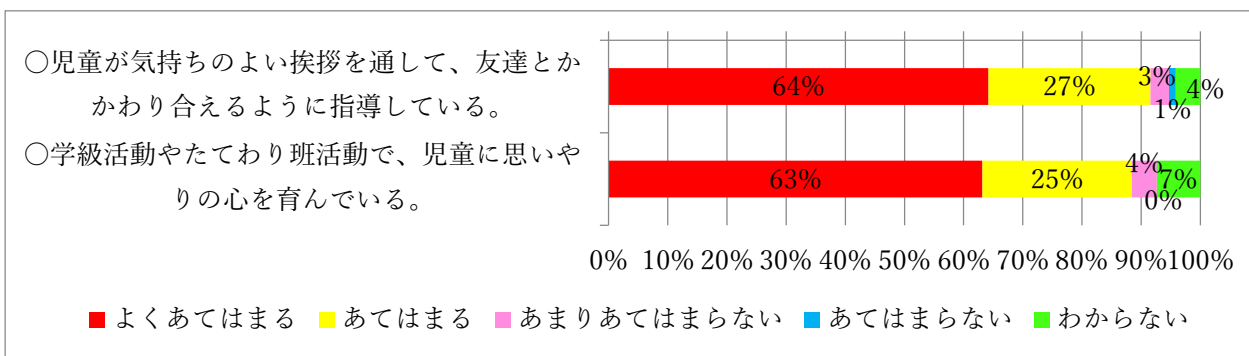
次年度以降、まだこの状況が続くことも想定しながら、体験的な学習も可能な限り実施していく。

2) 重点目標2「心豊かな子どもの育成」について

<教員の自己評価>



<保護者アンケートによる評価>

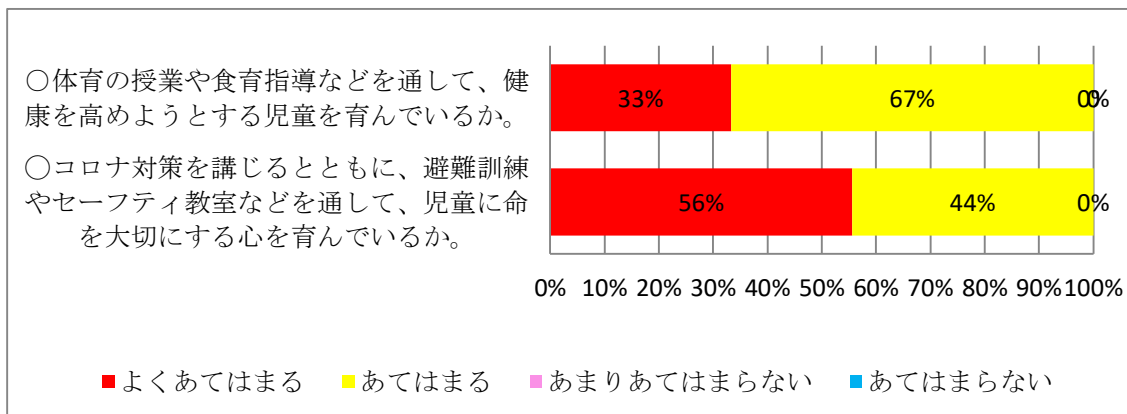


「心豊かな子どもの育成」への取組のうち、「気持ちのよい挨拶」に関しては高い評価だった。これは、挨拶キャンペーンなどで児童同士が声を掛け合う場を設けたことや、全校朝会等での6年生のリードによる全体での挨拶などがよい影響として表れている。一方、「たてわり班活動」に関しては、よい評価を維持しながらも、「よくあてはまる」が大幅に減少した。本校の特色である1年生から6年生までが一つの班になって関わり合う「たてわり班活動」を通して、高学年はリーダーとしての自覚と思いやりの心を育み、低学年は高学年の姿を見て成長していくという児童同士の学び合いの場が、コロナ禍で大きく制限されてしまったことが要因である。音楽朝会を全学年ではなく、3学年ごとに分けて行うなどの工夫を凝らしたり、「たてわり清掃」や「たてわり遊び」は状況を見ながら進めたりしているが、例年のような満足度は得られず、児童の自己肯定感を高めることが難しかった。（児童「よくあてはまる」は昨年比16%減）音楽発表会のリハーサル鑑賞後に行ったメッセージカードによる交流のように、形を変えての関わり合いの場を設定していくなど、次年度は一層工夫を凝らしていく。

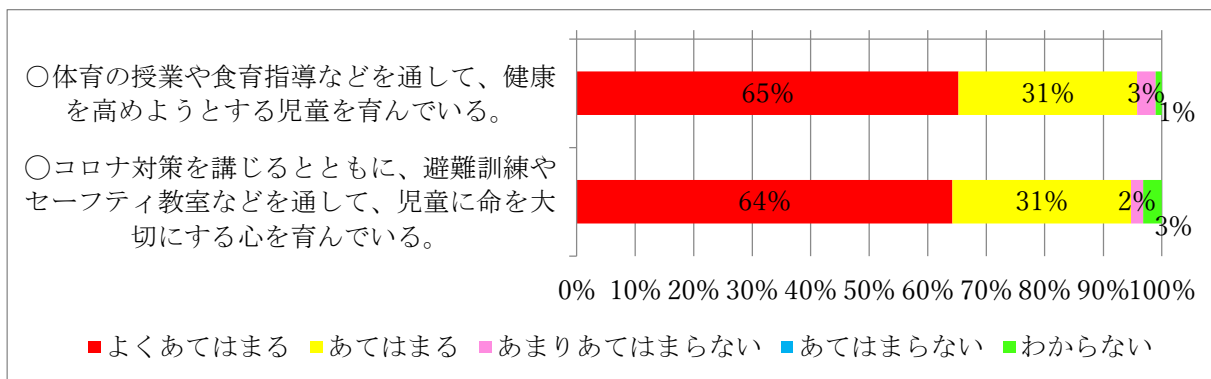
また、「わからない」と回答する保護者も増加している。これに関しては、学校公開や各種行事が当初の予定通りに開催できなかったこともあるので、今後は、ホームページ上での保護者への限定公開など、学校からの教育活動の発信の仕方を工夫していく。

(3) 重点目標3「健康・安全教育の充実」について

<教員の自己評価>



<保護者アンケートによる評価>



コロナ禍ではあったが、今年度も「健康・安全教育の充実」を図るために、セントラルスポーツから講師を招き、「投げ方教室」「かけっこ教室」「なわとび教室」「サッカー教室」を行い、体力の向上を図った。しかし、運動会の中止や水泳指導の中止、体育授業での種目による制限などもあり、教員の自己評価では「よくあてはまる」が昨年度の80%から33%へ減少した。反面、保護者・児童アンケートによる「よくあてはまる」はそれぞれ10%・9%向上し、臨時休業中に体を動かすことができなかった状況を解消していることが分かる。校舎移転により屋上校庭での活動ができ、また、体育館も広くなったので、今後は、環境を十分に生かして体力向上を図っていく。

安全面においては、コロナ対策では、校内の清掃、換気、3密にならない環境作りと児童への指導、保護者への呼びかけを行ってきた。また、NTTドコモ、警察署・消防署と連携したセーフティ教室や、引渡訓練・避難訓練等、児童が安全で安心して過ごせるよう指導・支援してきた。こうした取組の結果、教員・保護者アンケートにおいて「よくあてはまる」「あてはまる」の合計がそれぞれ95%以上の高い評価となった。今後も、コロナ対策をしっかりと行いながら、安全確保に向けて一層充実した教育活動を目指していく。

2 重点目標以外の評価における達成状況及び達成のための取組状況

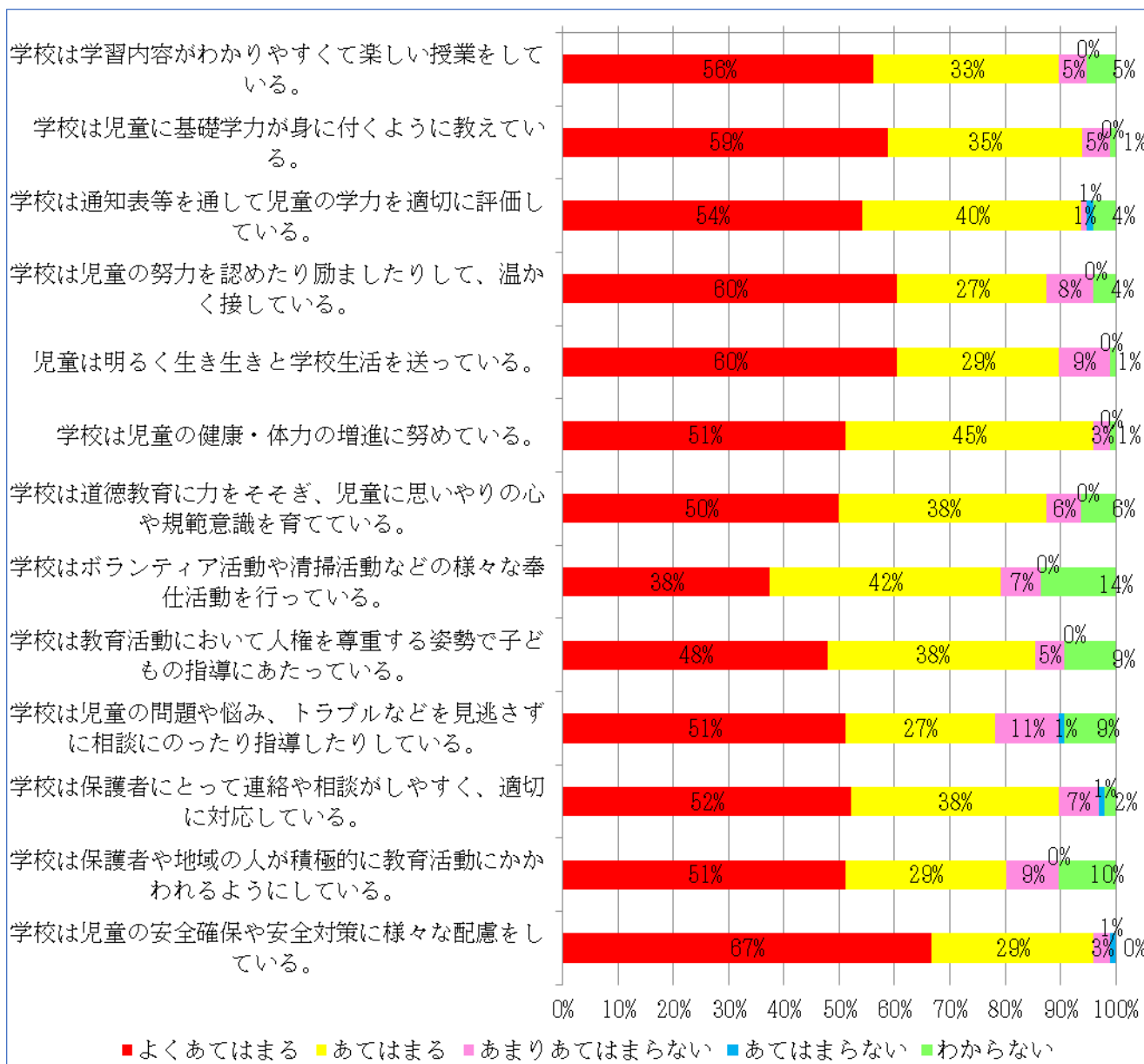
(1) 教員の自己評価より

全体総括では、ほとんどの項目で「よくあてはまる」「あてはまる」の合計が90%以上の高い評価であったが、様々な活動の制限により、やや偏りの見られる結果となった。特に、保護者・地域との連携や情報提供においては難しい局面が多かった。保護者、地域と学校が顔を合わせて意見を論じ合い、協力し合っこそ、充実した教育が行えると改めて感じた一年となった。

特別支援教育に関しては、生活指導夕会を通しての共通理解を図ったり、特別支援教室「スマイル」やスクールカウンセラーとの連携を図ったりすることができ、児童への早期対応により、手だてを講じることができた。今後は一層連携を強化させ、さらなる充実を図る。

また、キャリア教育については、新たに取り入れられる「キャリア・パスポート」の活用方法を探りながら、児童が次へのステップへとつなげていけるように価値付けさせていく。

(2) 保護者アンケートによる評価より



※今年度は、コロナ禍にあり、評価項目が若干削減されています

13項目中10項目で「よくあてはまる」「あてはまる」の合計が85%を超えたが、全体的には昨年度よりも微減の状況だった。要因としては、コロナ禍での教育活動の制限ということもあるが、特に「わからない」という回答が各項目で目立った。これについては、やはり、学校公開や保護者会、各種行事等の中止や回数削減により、児童の学校生活での様子がなかなか伝わりづらかったことにあると考えている。先にも述べたように、今後は、ホームページ上での保護者への限定公開など、学校からの教育活動の発信の工夫をしていく。

また、学習関係の評価が高水準を維持したのに比べ、「児童の問題や悩み、トラブル」については「よくあてはまる」「あてはまる」の合計が80%を切り、大きく後退した。児童アンケートの「先生は悩みなどについて話しやすいか」の項目の「よくあてはまる」「あてはまる」の合計が50%弱にも表れているように、コロナ禍に抱えるストレスや悩みを十分に受け止められなかった。担任だけでなく、特別支援教育コーディネーターやスクールカウンセラーを活用して児童へのアプローチを心掛けてはいたが、各種行事やたてわり班活動などで培える自己肯定感や達成感が高められなかったこともこの背景にあると考えている。学校サポートチームの一層の活性化を図りながら、教育活動の見直しを行い、学校組織として悩みや相談に対応する体制を確立していく。

なお、保護者アンケートによる「教育活動への積極的な参加」の項目の「よくあてはまる」「あてはまる」の合計が10%減少したが、今後のコロナの動向により地域・PTAとも連携して活動を判断していきたい。

(3) 児童アンケートの状況より

昨年に引き続き、今年度も4～6年児童にアンケートを行った。学習関係は「よくあてはまる」「あてはまる」が増加傾向だったが、他の項目は減少に転じた。中でも、「先生は悩みなどについて話しやすいか」の項目は昨年度よりも大幅に下がった。これについては、上述の対応を進めていく。

今後は、コロナ禍にあっても、児童の自己肯定感や達成感の向上を目指し、分散型の音楽朝会などのように教育活動の展開の工夫をしていく。

3 今後の改善方策

次年度は、60周年の周年行事がある。再来年度に新校舎移転、落成式を控えているために、60周年は縮小形式で行う予定だが、周年行事を通して城東小学校の伝統やよさを受け継いだ教育活動を展開し、児童の成長につなげていく。

そのためにも、教職員が一体となり、学校からの積極的なアプローチや情報発信をしながら、保護者・地域との連携をさらに密にし、PDCAのサイクルで改善を図っていく。